

日韓戦略対話「東京－ソウル フォーラム」

世界平和研究所は、2011年11月25日-26日の両日、韓国ソウルロッテホテルに於いて、韓国ソウル国際問題フォーラム、韓日協力委員会との共催で、日韓戦略対話「東京－ソウル フォーラム」第2回会合を開催した。北東アジア地域では、不安定な北朝鮮や中国の台頭など不確定要素が存在し、この地域の安定のための日韓協力がますます重要になりつつある。当研究所では2010年より日韓戦略対話促進のための本フォーラムを毎年交互に開催している。



25日午後には「東日本大震災後の日韓協力」をテーマに、約150名の聴衆の参加を集めて、公開シンポジウムが開催された。冒頭、李洪九ソウル国際フォーラム会長と南恵祐韓日協力委員会会長から日韓両国が協力を行う重要性を指摘する挨拶が行われた。続いて、麻生太郎元内閣総理大臣が基調講演を行い、「基本的価値を共有する民主主義国同士である日韓両国が、アジアの「安定勢力」として協力し、未来志向の関係を打ち立てることが大変重要である」と指摘した。公開パネルでは、三村明夫新日本製鐵会長、小此木政夫九州大学特任教授、趙錫来暁星グループ会長、朴喆熙ソウル大学教授がパネリストとして参加し、日韓経済連携協定の見通し、日韓賢人会議の可能性、日韓協力の将来などが議論された。



翌26日には、①同盟と北東アジアの地域戦略、②地域経済協力、③エネルギー・環境協力を議題とし、日韓両国の政界、財界、学会から約30名の参加者を得て、クローズドセッションが開催された。第1セッションでは、金聖翰高麗大学教授、鄭在浩ソウル大学教授、北岡伸一東大教授より発表があり、中国の台頭が東アジア地域に与える影響、日米韓協力あり方などが話し合われた。第2セッションでは、柳津豊山グループ会長、朴泰鎬ソウル大学教授、北畑隆生元経済産業事務次官から発表があり、TPPの進展と日韓経済連携協定のあり方、日韓の経済分野の協力の方向性などが話し合われた。第3セッションでは、古川元久国家戦略担当大臣、金明子元韓国環境庁長官から発表が行われ、グリーン・イノベーションにおける日韓協力のあり方などが話し合われた。

本フォーラムの様子は、読売新聞、日本テレビ、韓国中央日報などで取り上げられた。

